

「もっとよく知りたい、直腸がん ～今できる予防と治療～」

一般・消化器外科 辻仲眞康

大腸は、口から摂取された食物が通る最後の場所です。直腸は、それが体の外に排泄される出口に位置しています。この直腸にできるがんを、「直腸がん」と呼びます。直腸がんと聞くと、とても悪いがんであるという印象を持つこともあるかもしれませんが。確かに、直腸がんは、大腸のその他の部位である結腸に発生した「結腸がん」に比べて予後がやや悪いことが知られています。しかし、直腸がんに対する診断や治療は、近年着実に進歩しています。今回の講演で、直腸がんに対する予防や治療に関する知識を深め、直腸がんという病気に対する意識を高めていただければ幸いです。

まず、どのようにして直腸がんにならないようにすればよいのでしょうか？直腸がんを含む大腸がんに対する一般的な予防方法はあります。まず、大腸がんの発生は生活習慣と関わりがあります。喫煙、肥満、運動不足、赤肉や加工肉の摂取、過剰な飲酒により発生の危険性が高くなるといわれています。また、食物繊維を含む食品の摂取は大腸がんの予防に効果があるとされています。

直腸がんを早期に発見し適切な治療を行う目的で、大腸がん検診が有用です。便潜血検査を用いた検診は、がんによる死亡率を減らすという科学的根拠があります。便潜血検査の結果、「要精検」となった場合は、大腸内視鏡検査による精密検査を必ず受けましょう。

もし、直腸がんと診断されたら、どのような治療が受けられるのでしょうか？がんの病期によって、内視鏡で切除し治療するものがあります。早期の直腸がんがこれに相当します。ただし、早期の直腸がんの中にも、直腸の周りのリンパ節に転移しやすいタイプのがんがあり、内視鏡的切除に続いて、あるいは初回の治療として外科的切除（手術）が推奨されています。

一方で、進行の直腸がんに対しては、手術が標準的な治療方法です。従来からの開腹手術に加え、近年では、腹腔鏡下手術が選択されることが多く見受けられ、患者さんの身体的な負担を減らす取り組みがなされています。実施可能な施設は限られていますが、ロボット支援下の直腸がん手術を行うチームも増えてきました。しかし、直腸がんは、結腸がんに比べて骨盤内の「局所」再発が多いことが知られています。この局所の再発をより少なくするため、特に肛門に近い進行直腸がんに対して、手術の前に放射線あるいは放射線と抗がん薬とを組み合わせた治療を提供することがあります。これらの治療を総称して集学的治療といい、直腸がんの再発に対して有効性があることも着目されています。